

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 9月 28日
2次評価日（部長等）	30年 10月 1日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	サービス業の振興	コード	2-2
この施策の主な内容（細施策）	(1)産業支援型サービス業の育成 (2)生活支援型サービス業の育成 (3)環境関連サービス業の育成		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	サービス経済化の流れに的確に対応しながら、経済の活性化につながるサービス業の育成		
担当部課	部 産業振興部	課等 商業観光課	作成者 師岡 竜也

●施策の実施内容 (D0)

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度			30年度	31年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
①						-		
指標説明	サービス業に関する事業所（H24、25、26、27、28、29調査実績なし）							
②						-		
指標説明	サービス業に関する従業者数（H24、25、26、27、28、29調査実績なし）							
③						-		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0
合計コスト	0	0	0	0

●施策の評価 (CHECK)

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

製造業を中心に発展してきた歴史から、産業全体に占めるサービス業の割合が低い。製造業の事業所数が減少し、商業を取り巻く環境が大きく変化するなかで、サービス業の育成が課題のひとつになっている。社会・生活・文化の多様化から、新たなサービス業が発展する可能性も大きいですが、少子化によりサービス業の担い手となる若者が減少傾向にあることは懸念される。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	製糸業から精密機械工業が発展した歴史のなかで、関連する産業が生まれてきた経緯がある。コンパクトに生活要素が市街地に集中する立地からも新たなサービス業を展開する素地がある。
岡谷市の弱み	ものづくりの歴史が古く、人に対するサービスやおもてなしの気風が醸成されていない。商業会組織や岡谷TMOも課題を抱え、新たな創業者を受入れ育成する体制が整っていない。

5 今後の外部環境の変化

* 30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	該当する事務事業なし
不利に働くもの	該当する事務事業なし

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	該当する事務事業なし
見直しを行う分野	該当する事務事業なし

●31年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	27年度	27年度			
							28年度	28年度			
							29年度	29年度			
							30年度	30年度			
1				該当する事務事業なし							
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											